

図書館員のひみつの本棚 第3回

みなさん、こんにちは！本があまり好きでない子どもでも、その本と出会うとたちどころに本が好きになる、そんな魔法のような本を毎月図書館員が紹介するコーナーがこの「図書館員のひみつの本棚」です。第3回目の今回は、絵本のほかに読み聞かせをする方にぜひ読んでいただきたい本を紹介します。次回からは読み物や絵本以外の本も紹介する予定なのでご期待ください！

『かようびのよる』

デヴィット・ウィーズナー 作・絵 当麻 ゆか 訳 徳間書店 1470円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学★★☆
高校★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

あるかようびのよる8時ごろ、沼からカエルたちが浮かびあがりました。そして空に舞い上がり町のほうへ。夜食を食べている男の家の洗濯物を蹴散らかし、居間で寝ているおばあさんのまわりでテレビを見て、庭で寝ていた犬を追いかけやりたい放題。でも夜明けの光がさし始めると、その不思議な力も消えて、地面にはカエルが乗ってきた葉っぱだけがたくさん残っていたのでした。そして次のかようびのよる、空に浮かんだ生き物は……！？

ほとんど字のない絵本ですが、絵だけで十分物語りが楽しめます。何度みても飽きない絵本です。

<子どもに手渡すときのポイント>

題名を読んだあとに、カバーに書いてある文章を読むとぐっと雰囲気盛り上がります(このできごとは あるかようびに アメリカの とあるまちで じっさいに おこったことです・・・)また、字はほとんどないので絵をじっくり見せてください。その際、何もコメントを加えないほうがいいと思います。黙ってただ絵をじっくり見せる。すると子どもたちの心にそれぞれ物語りが出来上がっていくのがわかります。



『えほんのせかいこどものせかい』

松岡 享子 日本エディタースクール出版部 1365円 一般向け

＜本の紹介＞

これまで2回、このコーナーで絵本を紹介してきましたが、これを機に読み聞かせを初めてくれた方がいらっしゃるでしょうか？子どもたちに絵本を読む、そして一緒に楽しむ、その楽しみを実感されている方は、ぜひ次に、子どもたちに絵本を手渡すことについて、少し立ち止まって考えていただければと思います。子どもはもちろん大人ではありません。そして、絵本は子どもたちの心を育ててくれます。この二つを考えたとき、大人が子どもに絵本を選んで手渡すことの重大さがみえてくるのではないのでしょうか？そしてこの問題を考えるとき、まず読んでいただきたいのがこの本です。絵本を子どもたちに読むということが子どもたちにとってどういうことなのか？よい絵本とは子どもたちに何を与えてくれる絵本なのか？子どもたちがよい絵本と出会うために私たち大人に何ができるのか？この本はそんな私たちの疑問に答えてくれます。

子どもの時代は長い人生の中のほんの短い間です。その短期間にどんな本にどんな風に出会うかは一重に周りの大人にかかっているのではないのでしょうか？もう、子どもたちと一緒に読み聞かせを楽しんでいらっしゃる方も、今から始めようと思っいらっしゃる方も、ぜひ一度読んでみてください。



事務局注

この本の著者である東京子ども図書館理事長松岡享子さんをお招きして9月23日（祝）にフォーラムとおはなし会を開催します。詳しくは「福岡市子ども読書フォーラム」の添付ファイルをご覧ください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか